

日時：2025年11月5日（水）午前

場所：JICA 東京 別館セミナールーム

研修内容：CASIO による、私企業の教育における役割についての講話

概要：

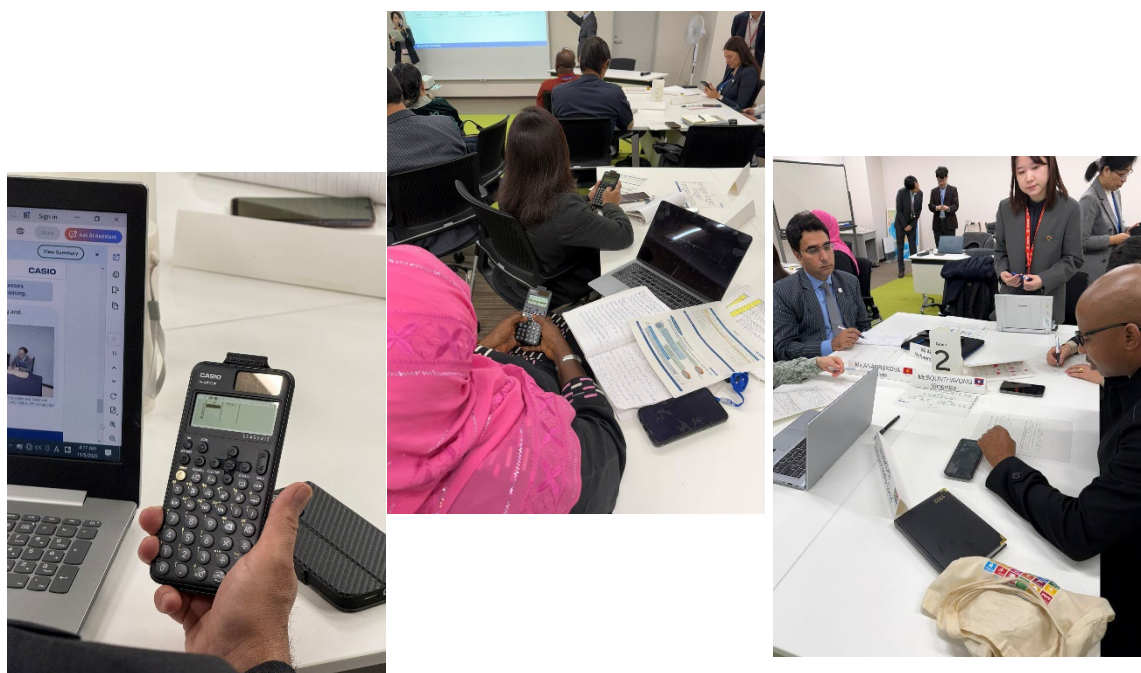
本日のセッションでは、CASIO が提供する STEM 教育強化パッケージについて紹介があった。このパッケージは、科学、技術、工学、数学を統合的に学ぶことで、現代社会に必要なスキルを育成することを目的としている。

パッケージの中心となるのは、直感的で使いやすい関数電卓と、計算や演算を実演できるソフトウェアです。これに加え、電卓の使用方法、授業計画、実際の状況をカバーする教材が用意されており、生徒の数学のスキルを向上させ、好奇心を刺激することを目指している。また、教員研修も含まれており、教員が自信をもって関数電卓を活用できるように支援するとのことだ。

セッションでは、豊臣秀吉と曾呂利新左衛門の「米倍々ゲーム」を題材に、指数関数的な増加を関数電卓で計算する体験が行われた。参加者たちは、30日後に米が何粒になっているか、関数電卓を実際に使用し求めていた。また、最後に QR コードを読み取ると、スマホ上にグラフが現れた。

その後のグループワークでは、自国で新しい教育教材や教育手法を導入する際、どのような政策があるのかということについてや、自国の背景や課題を踏まえ、実装を成功させるために重要な過程や、成功要因は何かについて議論していた。

研修員たちは、関数電卓を直感的に体験し、非常に興味を示していた。今後、研修員の各国に、CASIO の関数電卓が導入されるかもしれない。



日時：2025年11月5日（水）午後

場所：JICA 東京 別館 セミナールーム

研修内容：グループワークを中心としたワークショップ

概要：

本日のワークショップでは、複数の研究論文を読み、その有用性や政策上の課題についてグループで議論した。主な論点は、研究の目的や主要な発見、最も有用な研究の選定とその応用方法、さらに政策や制度に関連する問題点の有無に関してであった。議論の中で、研究者と政策立案者の関係性にも触れられ、程よい距離感で、近すぎず遠すぎない関係であるべきという意見が共有された。

研究論文における具体的な事例として、ポリビアで実施された「生徒中心の学習」を重視した教育改善プロジェクトが紹介された。調査によると、対象となった54校のうち48校でプロジェクトは効果的に活用され、政治的支援も比較的良好であった。教室レベルでは、生徒中心の学習が推進され、教育の質向上に貢献したことが明らかにされた。一方で、課題として、コミュニケーション不足や支援体制の弱さにより、プロジェクトの完全な実施が困難であり、研修制度が継続されなかったこと、さらに研修内容が政府主導に変わったことで現場の役割や方向性に变化が生じた点が指摘された。

教育プロジェクトは、始まりこそうまくいくが、その後の持続性という観点から見た時に、地方自治体の協力やもともと制度を策定した人の継続的な関与、そして予算を確保することがプロジェクトの持続には不可欠であると、私は感じた。

